

歴博 くらしの植物苑だより

第110回くらしの植物苑観察会 5月24日（土）

身近な山菜

中川 重年（本館研究部客員教授）

くらしの植物苑のある佐倉では山菜の時期は少し過ぎましたが、今東北地方、北陸地方では山菜の真っ盛りです。低山ではワラビの季節、やや高い山では残雪のそばにフキ、ウド、沢にはミズガのび、ワサビが白い花を咲かせています。

長い冬があけ、春から初夏と一気に植物がみずみずしく伸び、山菜を楽しむには大変よい時期になっています。

くらしの植物苑にも山菜等の食用になる草や樹木が見本に植えられています。また後ほど公園内を散策し、身近な山菜を解説してみましよう。

山菜でよく知られているものにウド、ゼンマイ、フキ、ギボウシ、タラノキ、コシアブラなどがあります。いずれも独特の香りと一種のえぐ味があり、他の野菜にない野生の風味を楽しませてくれます。

何事も過ぎれば逆効果。山菜でも同じです。あく抜きが過ぎれば風味がうせてしまいます。山菜を楽しむにはえぐ味を適度に残します。ゆでる、ゆでて灰汁に浸ける、流水につける、塩漬けにして水洗い、さまざまな方法があります。

季節ごとの野菜が食卓をにぎわしますが、日本原産の野菜は大変少ないものです。本日おいでいただいた皆さんと何があるか考えて見ましよう。また最近では山菜から野菜へ格上げ？してくる山菜も少なくありません。一方以前ではたくさん見られた植物も環境の変化から減少し食べるとお小言をもらうような植物もあります。

山菜を楽しみながら、山の資源を探り人間と自然の共存を考えるのも楽しいものですね。

メモ

くらしの植物苑の中に見られる山菜

公園内で食べられる野草

日本在来の野菜は

次回予告

第111回くらしの植物苑観察会 2008年6月28日(土)

「梅雨の植物」 中川 重年(本館研究部客員教授)

13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要 要入苑料